

第16回 豊川流域圏自然再生検討会 議事概要

開催日時：令和5年10月4日（水）10:30～12:10

開催場所：豊橋河川事務所 3F 災害対策室

1. 開 会

2. 挨拶（豊橋河川事務所 所長）

3. 報 告

『令和5年6月の台風第2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨』豊川等における出水概要

事務局より事務所 HP 公開の資料の内容を説明した。

4. 議 事

（1）第15回 豊川流域圏自然再生検討会 主な意見と対応

事務局より説明。意見等なし。

（2）豊川自然再生事業の概要

事務局より説明した。委員からの主な意見は、次のとおり。

<ヨシ原再生>

- ・豊川放水路のヨシ原再生の施工幅は出水に影響が無いように計画されていると思われるが、令和5年6月の大規模出水でも影響はなかったか。環境面の評価はヨシ原面積が拡大しており順調ということで良いが、出水後にヨシが流失、倒伏していないようなので出水への影響が懸念される。
→ヨシ原による出水への影響は特にみられていない。また、流下能力としても洪水痕跡水位などを確認しており、問題ない。（事務局）
- ・ヨシ原再生の施工実施状況について、令和4年度は工事の実績は無いのか。
→工事は予算の関係や土砂の発生状況に基づき施工を順次進めている状況であり、令和4年度は施工していない。（事務局）
- ・景観の住民評価の一例として事業評価アンケートの結果を示しているが、アンケートの対象や人数などを教えて欲しい。景観が良くなったとする意見は自主的に出たものか。
→アンケートは事業区域から7km範囲の住民を対象に、年代別に無作為抽出して行った。有効回答数は400票程度で、景観の評価は、自由回答で得られた自主的な意見である。（事務局）

<干潟再生>

- ・干潟再生はヨシ原再生と異なり、最終的に目指すべき姿が明確ではない。一方で近年の調査によって豊川河口におけるアサリの生態が明らかになってきたので、アサリにとって河口干潟はどうあるべきかを検討してみたいかがか。
- ・干潟の施工については、二枚貝の生息場面積の問題が大きいと考えており、中州の堆積した土砂を活用して干潟面積を増やすことは意義がある。自然再生箇所だけではなく、三河湾全体とのつながりを意識して調査結果を解析する必要がある。
- ・施工箇所の空撮写真について、漁業者の関心が高い海側の範囲を含めた写真があると参考になる。
→出水の影響範囲を把握する観点からも、海側を含めた撮影を検討する。(事務局)
- ・中州の自然に高くなっている箇所は、波浪等の影響で形成された意味のある地形である可能性も考えられる。堆積した土砂を押し出して広げればよいというものではなく、もう少し丁寧に見ていく必要がある。
→試験施工によって地形変化をモニタリングしながら、アサリの生息との関係を把握していく。(事務局)
- ・干潟の土砂が出水によってどの程度入れ替わって、現在の地形を維持しているのかを考えるとともに、保全したい生物にとって有効な生息場となっているのか、また生息場を増やすためにはどのような補助的な施設が必要なのかを検討する必要がある。干潟の再生にとって、土砂の入れ替わりは重要なことであり、入れ替わりがどの程度生じているのかを把握する調査が必要である。
→干潟の面積だけではなく、質も併せてみていく必要があると考えている。今後どのようにデータをまとめていくのがよいか、助言をいただきながら検討する。(事務局)

<アサリ着底稚貝調査>

- ・令和4年秋季から令和5年春季の着底稚貝は、着底初期の餌料環境が悪かったことや、冬季の低水温、その後の出水が重なって、生残が悪かったと解釈できる。豊川浄化センターの管理運転による窒素の増加放流が令和4年11月から実施され、その結果プランクトンは増加したが、着底初期の時期とは異なっていたため、必要となる餌料環境の時期とミスマッチが生じたと考えられる。
→今後も餌料環境の変化に留意しながら、モニタリング調査を継続する。(事務局)

5. 閉 会

以上